

第四章 調査結果

4-1 調査実施概要

(1) 対象

調査は2004年9月～10月の間に実施した。詳細は表4-1参照。

配布人数とは、調査セットを配布した人数である。有効人数とは、調査回収時点で調査セットに欠損がない調査対象者の人数である。

カメラ調査日の天候はどの日も雨天ではなかった。

表 4-1 調査実施概要

学校名	a小	A中	b小	B中	全体
調査対象	5年1組	2年2組	5年2組	委員会	
カメラ調査日	9/13	9/14	9/16	9/22	
アンケート日	9/16	9/16	9/22	10/5	
説明方法	訪問	訪問	訪問	依頼	
配布人数	38	25	38	30	131
有効人数	35	21	38	27	121
男	22	11	20	13	66
女	13	10	18	14	55

なおB中に関しては、学校側からの申し出により、各クラス二名ずつの委員からなる生活委員会の二、三年生に調査を依頼した。調査対象者に関しては表4-2参照。また、調査は担当の先生が筆者から説明を受けた後に代行する形式で実施した。その際好きな道に関する調査は行っていない。

表 4-2 B中調査対象者

配布人数	30
有効人数	27
① 男	13
① 女	14
② 二年生	9
② 三年生	18

(2) サンプルング

本研究において、調査有効サンプルは配布人数131人中121人(92.4%)である。調査有効サンプルとは、分析段階で分析可能な調査対象者である。以後、調査対象者はサンプルと表現する。調査回収物に欠損があった調査対象者は調査有効サンプルとして扱わなかった。

このうち、B中に関しては調査対象者や実施方法に違いがあった。しかし、B中の調査結果から、危ない道の撮影枚数がやや少ないが、コメントは多く書いており、一枚一枚を丁寧に撮影していることがわかった。撮影枚数は少なくとも、危険箇所一箇所において、危険性を深く検証して撮影していると言える。よって、危険性認識を明らかにするうえで有効であり、撮影枚数の少なさは特に問題ではないと考えた。

また、好きな道を撮影する指示が与えられていないが、好きな道の分析を除けば分析可能であったため、これも特に問題ではないと考えた。

そこで、B中の調査対象者も全て調査有効サンプルとして扱うことにした。つまり、調査有効サンプルは配布人数131人中121人(92.4%)である。

分析段階でそれぞれ対象となるサンプルは表4-3 参照。

表 4-3 分析対象サンプル

調査有効サンプル	121	100.0%
危ない道撮影サンプル	116	95.9%
好きな道撮影サンプル	66	54.5%
遊び体験分析可能サンプル	110	90.9%
通学距離分析可能サンプル	121	100.0%
通学人数分析可能サンプル	101	83.5%

(3) 結果

分析可能な写真を以下の条件で判断した。

- 調査の指示通り通学路で撮影していること
- 露出不足等で判別不能ではないこと

その結果、全写真枚数859枚中分析可能写真枚数は765枚(89.1%)となった。各学校の写真枚数及び一人当たり写真枚数は表4-4、図4-1の通り。

表 4-4 各学校における写真撮影枚数及び一人当たり写真枚数

学校名	a小	A中	b小	B中	全体
有効人数/配布人数	35/38	21/25	38/38	27/30	121/131
男	22	11	20	13	66
女	13	10	18	14	55
全写真枚数	227	268	296	68	859
分析可能写真枚数	213	198	289	65	765
危ない道枚数	157	101	202	64	524
好きな道枚数	59	97	87	1	244
全写真枚数/有効人数	6.20	12.76	7.79	2.52	7.10
分析可能写真枚数/有効人数	6.09	9.43	7.58	2.37	6.32
危ない道枚数/有効人数	4.49	4.81	5.29	2.37	4.33
好きな道枚数/有効人数	1.69	4.62	2.29		2.02

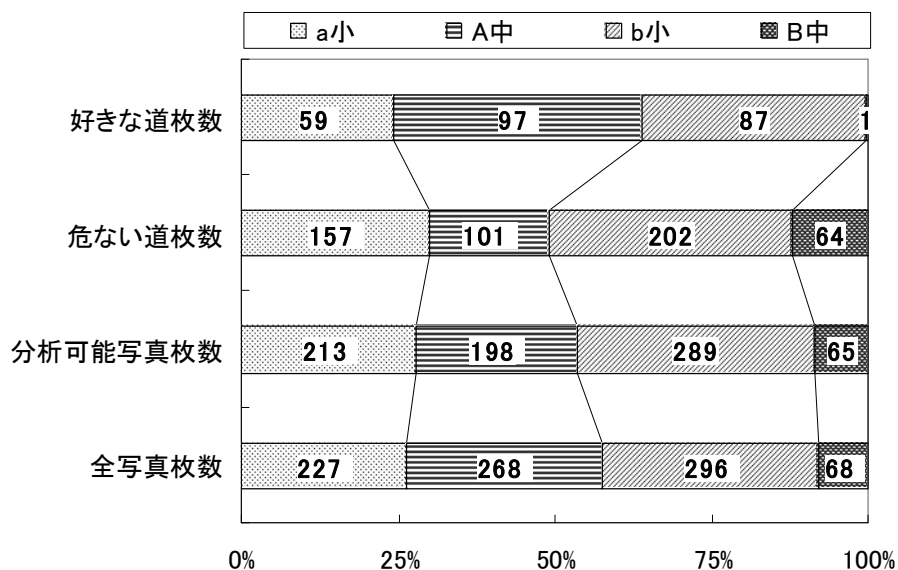


図 4-1 各学校における写真撮影枚数の比較

b 小は全写真枚数が多く、危ない道枚数も多い。A 中は好きな道枚数が多い。また、B 中の危ない道枚数がやや少なくなっている。

各学校における一人当たりの危ない道枚数では、b 小が最も多く、B 中が最も少ない。一人当たりの好きな道枚数では、A 中が最も多く、a 小が最も少ない。

各学校の通学距離及び通学人数は表 4-5 の通り。

表 4-5 各学校における通学距離及び通学人数

	平均 通学 距離	通学距離					通学人数					通学手段		
		0-250m	251-350m	351-500m	500m-	計	一人	二人	三人以上	記述なし	計	徒歩	自転車	計
a小	344	9	10	10	6	35	15	6	12	2	35	35	0	35
A中	477	4	3	6	8	21	7	8	5	1	21	13	8	21
b小	311	11	13	12	2	38	6	20	9	3	38	38	0	38
B中	434	6	5	8	8	27	0	11	2	14	27	20	7	27
全体	378	28	28	32	22	110	28	45	28	20	121	106	15	121
全体%		25.5%	25.5%	29.1%	20.0%	100.0%	23.1%	37.2%	23.1%	16.5%	100.0%	87.6%	12.4%	100.0%

平均通学距離では、b 小が 311m と最も短く、A 中が 477m で最も長い。

通学距離では、351-500m の分類に含まれるサンプルが最も多い。

通学人数では、二人と答えたサンプルが 37.2%と最も多い。

通学手段では、自転車と答えたサンプルが 15 人(全体の 12.4%)いた。また、小学校で自転車と答えたサンプルはいなかった。

4-2 危ない道の特徴

危ない道の特徴を撮影対象とコメントから学校別に考察する。

4-2-1 危ない道撮影対象の特徴

危ない道を撮影した写真の主な撮影対象を表 4-6、
図 4-2 に示す。

全校合計値では、交差点が最も多く、次に直線道路、
横断歩道、歩道、路肩、路面の順が多い。

以下、学校別に考察を加える。

表 4-6 危ない道の主な撮影対象
(全四校)

	a小	b小	A中	B中	計
交差点	56	70	37	24	187
直線道路	17	18	36	17	88
横断歩道	12	28	3	6	49
歩道	0	26	4	3	33
曲がり角	10	0	11	0	21
路面	1	22	1	0	24
路肩	23	1	0	1	25
溝	0	12	0	0	12
建物入口	8	8	0	0	16
橋	6	2	1	0	9
踏切	6	0	0	5	11
坂道	6	1	0	0	7
駐車場	3	2	1	0	6
その他	9	12	7	8	36
計	157	202	101	64	524

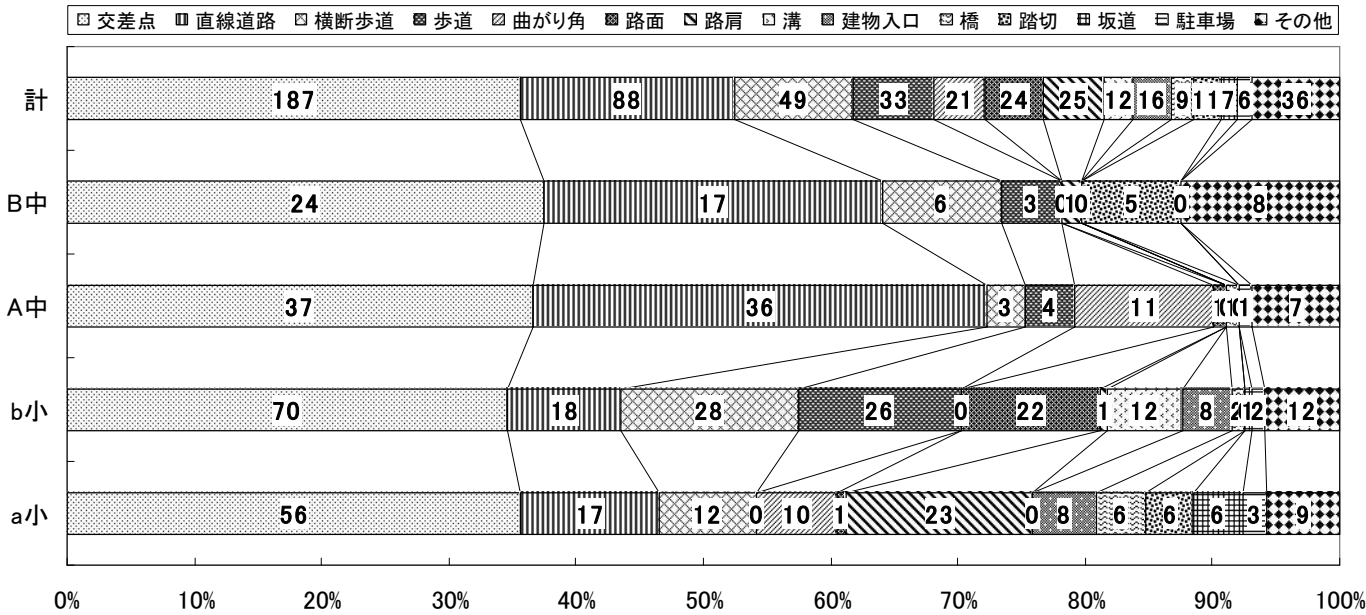


図 4-2 危ない道の主な撮影対象別の写真枚数比較

a 小では交差点の写真(図 4-3)が最も多く、次いで路肩(図 4-4)、直線道路(図 4-5)の写真が多い。



図 4-3 交差点の写真例(a-12-7)



図 4-4 路肩の写真例(a-8-1)



図 4-5 直線道路の写真例(a-8-13)

b 小では交差点の写真(図 4-6)が最も多く、次いで横断歩道(図 4-7)、歩道(図 4-8)、路面(図 4-9)の写真が多かった。



図 4-6 交差点の写真例(b-4-2)



図 4-7 横断歩道の写真例(b-34-5)



図 4-8 歩道の写真例(b-4-4)



図 4-9 路面の写真例(b-34-10)

a 小では交差点、路肩、直線道路の写真が多く、b 小では交差点、横断歩道、歩道、路面の写真が多かった。a 小、b 小に共通して交差点、横断歩道、直線道路を撮影している写真が多かった。

このことから、学区の地理的要件にはそれほど左右されず、小学生は交差点や直線道路、横断歩道などの要素を含む道を危ない道であると認識していると言える。また、それ以外の危ない道に関しては、学区の地理的要件の影響を強く受けた場所を認識していることが多い。

また、a 小のような郊外の学校では、歩道が少ないため路肩の危険を多く認知し、b 小のような市街地の学校では、逆に歩道や路面の状況、歩道脇の溝等に危険を感じる事がわかる。

A 中では交差点の写真(図 4-10)が最も多く、次いで直線道路(図 4-11)、曲がり角(図 4-12)の写真が多かった。



図 4-10 交差点の写真例(A-21-4)



図 4-11 直線道路の写真例(A-21-2)



図 4-12 曲がり角の写真例(A-5-2)

B 中では交差点の写真(図 4-13)が最も多く、次いで直線道路(図 4-14)の写真が多かった。



図 4-13 交差点の写真例(B-18-6)



図 4-14 直線道路の写真例(B-5-3)

A 中では交差点、直線道路、曲がり角の写真が多く、B 中では交差点、直線道路、横断歩道の写真が多かった。A 中、B 中に共通して交差点、直線道路を撮影している写真が多かった。

このことから、小学生と同様に、中学生も学区の地理的要件にはそれほど左右されず、交差点や直線道路を危ない道であると認識しており、それ以外の危ない道は学区の地理的要件に強く影響されていると言える。

A 中のような城下町の特徴を残す古い町並みでは、曲がり角における危険が多く認知され、B 中のような国道近くの新しく開発された街並みでは、横断歩道を含めて交差点における危険が多く認知されている。

4-2-2 危ない道のコメントの特徴

全ての学校における調査で得られた危ない道のコメントを表 4-7、図 4-15 に示す。

なお、コメントの分類については「3-2-1 危ない道、好きな道、コメントの単純集計」に述べた。

表 4-7 危ない道のコメント(全四校)

	a小	b小	A中	B中	計	全体%
交通量	23	46	18	19	106	18.0%
見通し	29	46	18	10	103	17.5%
路面・路肩	24	44	2	5	75	12.7%
設備	37	40	24	44	145	24.6%
ルール・マナー	17	16	1	10	44	7.5%
その他	14	18	5	4	41	7.0%
コメントなし	22	5	48	0	75	12.7%
計	166	215	116	92	589	100.0%

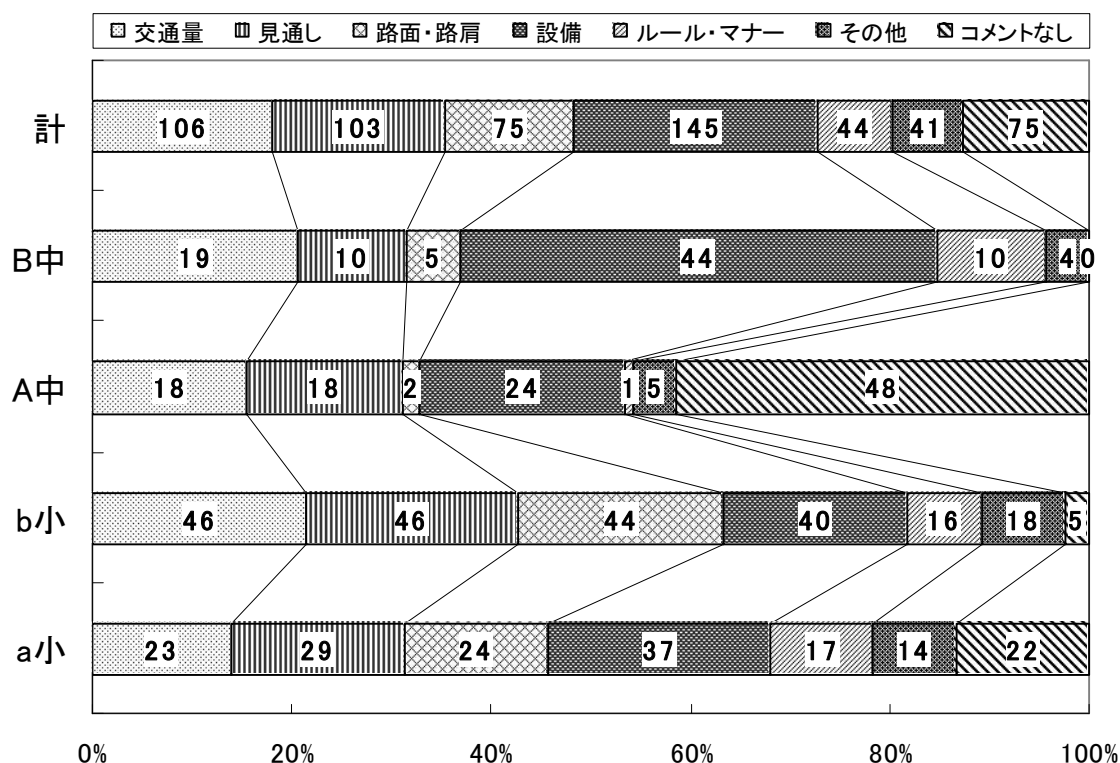


図 4-15 危ない道のコメント数比較(全四校)

各学校の特徴を以下に示す。

- a 小では、「信号がない」、「さくがない」、「歩行者の信号が短い」などの設備に関するコメントがやや多い。次いで「車が急に飛び出してくる」、「車が来ても見にくい」、「家で車が見えない」などの見通しに関するコメント、「すべって川に落ちそうになった」、「段差があって危ない」、「道がへこんでいて自転車などでいくととても危険、石がつめてある」などの路面・路肩に関するコメント、「車の通りが多い」、「車が走っている」、「車がよく通る道」などの交通量に関するコメントが多かった。
- b 小では、「車がいっぱい通る」、「車が来るから危険」、「自転車が通りやすい」などの交通量に関するコメント、「曲がり角で車あまり見えない」、「家がじゃまで車が見えない」、「車がよく出てくる」などの見通しに関するコメント、「足がよくはまる」、「道がでこぼこしていて自転車で通ると危ない」、「つまづきそう」などの路面・路肩に関するコメント、「道がせまい」、「信号が無い」、「信号が短い」などの設備に関するコメントが多かった。
- A 中では、「横断歩道が無い」、「狭い道」、「ここはT字路で横断歩道も信号も無い」などの設備に関するコメント、「車が通る」、「朝こっちから行くと車がいっぱい来て通りにくい」、「夕方は車がよく通る」などの交通量に関するコメント、「車庫や塀で曲がってくる車などが見えない」、「石垣で車が見えない」、「車が飛び出してくる」などの見通しに関するコメントが多かった。

- B 中では、「車と人の通る間が狭い」、「渡る歩道が長く、ゆっくり歩くとすぐに赤になる」、「踏切がある」などの設備に関するコメントが最も多く、次いで「車の通りが多い」、「通行量が多い」、「トラックが危ない」などの交通量に関するコメント、「Y字道路のため人がいるかどうかわからない」、「ゴミ置き場で車が見えない」、「トンネルの向こうからきたら危ない、気づきにくい」などの見通しに関するコメント、「車が通ったらダメな時間にも車が通る」、「駐車してあって歩道が歩けない」、「止まれがあるのに止まらんから危ない」などのルール・マナーに関するコメントが多かった。

a 小、b 小に共通して、交通量のコメント、見通しのコメント、路面・路肩のコメント、設備のコメントがほぼ同程度であった。また、A 中、B 中に共通して設備の指摘が最も多く、交通量に関するコメント、見通しに関するコメントも多くなっている。

このことから、小学生は事故が起こりそうな危険として、交通量の多さや交差点の見通しの悪さ、路面や路肩の整備状況、信号や歩道などの設備の整備状況を認知していると言える。また、中学生は事故が起こりそうな危険として、信号や歩道などの設備の整備状況を最も多く認知している。さらに、交通量の多さや交差点の見通しの悪さに関しても危険だと感じていることが多いと言える。

A 中のような城下町の特徴を残す古い町並みでは、設備の整備や交通量の多さ、見通しの悪さが危険として多く認知されている。B 中のような国道近くの新しく開発された街並みでは、設備の整備状況が悪い場所が危険として最も多く認知され、他に交通量の多さや見通しの悪さ、マナーの悪さが危険として認知される。なお、a 小と b 小では特に大きな違いは見られなかった。

4-2-3 危ない道についてのまとめ

危ない道に関して以下にまとめる。

- 小・中学生は交差点を危ない道として最も多く認識している。次いで、直線道路、横断歩道を危ない道と認識している。
- 学区の違いによる特徴的な危ない道は、郊外の小学校において路肩、市街地の小学校において路面状況や歩道脇の溝など、歴史的な町並みの中学校において曲がり角である。
- 小学生は危ない道だと感じるとき、交通量、見通し、路面や路肩の整備状況、信号や歩道の整備状況などから判断している。
- 中学生は信号や歩道の整備状況を最も大きな判断基準としている。また、交通量、見通しなども判断基準となっている。

4-3 好きな道の特徴

好きな道の特徴を撮影対象とコメントから学校別に考察する。

4-3-1 好きな道撮影対象の特徴

好きな道を撮影した写真の主な撮影対象を表 4-8、図 4-16 に示す。

全四校合計値では、その他を除けば直線道路が最も多く、次いで川・水路・堀、お店・建物、歩道が多かった。

以下、学校別に考察する。

表 4-8 好きな道の主な撮影対象
(全四校)

	a小	b小	A中	計
山	4	0	1	5
川・水路・堀	6	10	22	38
森	5	0	0	5
空	0	0	5	5
草花	0	14	0	14
動物	0	4	3	7
田んぼ	11	0	1	12
公園	7	0	4	11
直線道路	5	13	22	40
歩道	0	13	3	16
交差点	0	4	0	4
彦根城	5	0	5	10
お店・建物	0	12	18	30
自動販売機	0	4	0	4
その他	16	13	13	42
計	59	87	97	243

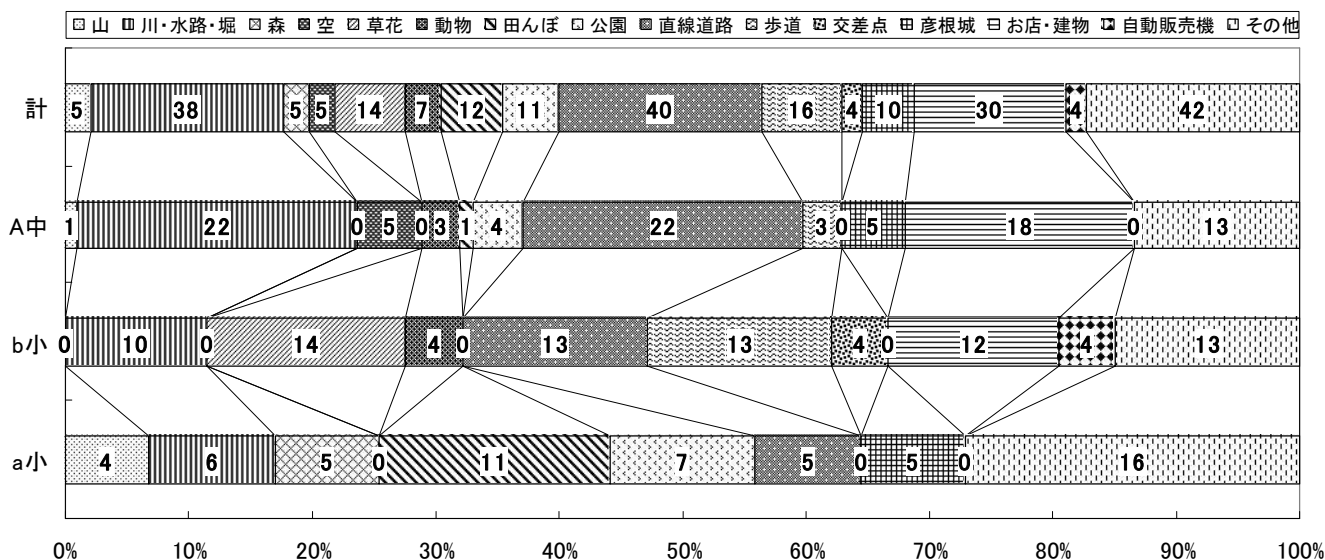


図 4-16 好きな道の主な撮影対象別の写真枚数比較

a 小では、田んぼ(図 4-17)や公園(図 4-18)、小川(図 4-19)の写真が多い。また、彦根城の遠景を撮影した写真(図 4-20)も見られた。

このことから、郊外の学区では、田んぼや小川、森などの自然に対して好意的な評価をしている結果と言える。また、学区外ではあるが身近に存在する彦根城を認知している。



図 4-17 田んぼの写真例(a-12-2)



図 4-18 公園の写真例(a-12-9)



図 4-19 小川の写真例(a-8-2)



図 4-20 彦根城の写真例(a-12-4)

b 小では、好きな道の要素として、沿道の草花(図 4-21)、花屋や果物屋などの特定のお店や建物(図 4-22)、芹川(図 4-23)が多く認知されている。また、歩道や直線道路において日陰部分を撮影した写真(図 4-24)やベンチなどの要素を撮影した写真(図 4-25)もあった。

このことから、市街地の学区では、小さな自然や街の変化をよく観察しており、沿道の草花や特定のお店を好意的に評価していると言える。



図 4-21 沿道の草花の写真例 (b-7-3)



図 4-22 果物屋の写真例(b-34-4)



図 4-23 芹川の写真例(b-13-3)



図 4-24 日陰部分の写真例(b-4-8)



図 4-25 ベンチの写真例(b-29-5)

A 中では、好きな道として、彦根城の堀（図 4-26）や桜並木の直線道路（図 4-27）、滋賀大学などの特定の建物（図 4-28）が多く認知されている。また、枚数はそれほど多くはないが、彦根城を撮影した写真もあり、堀や桜並木の写真と合わせると彦根城に関連する写真が非常に多かった。

このことから、A 中のような、城下町の特徴を残す古い町並みでは、その景観や景色に対して非常に好意的な評価をしていると言える。また、彦根城のようにシンボリックではあるが遠くにある存在よりも、近くに存在する堀や桜並木などの方が強く印象に残っていると言える。



図 4-26 彦根城の堀の写真例(A-12-9)



図 4-27 桜並木の写真例(A-5-1)



図 4-28 滋賀大学の写真例(A-18-6)

4-3-2 好きな道のコメントの特徴

全ての学校における調査で得られた好きな道のコメントを表 4-9、図 4-29 に示す。

なお、コメントの分類については「3-2-1 危ない道、好きな道、コメントの単純集計」に述べた。

表 4-9 好きな道のコメント(全四校)

	a小	b小	A中	計	全体%
動物	10	13	5	28	10.3%
植物	7	13	12	32	11.8%
景色	17	5	30	52	19.1%
建物	9	5	13	27	9.9%
遊び	8	5	3	16	5.9%
安全	5	3	4	12	4.4%
快適	0	31	3	34	12.5%
その他	0	6	3	9	3.3%
コメントなし	11	9	42	62	22.8%
計	67	90	115	272	100.0%

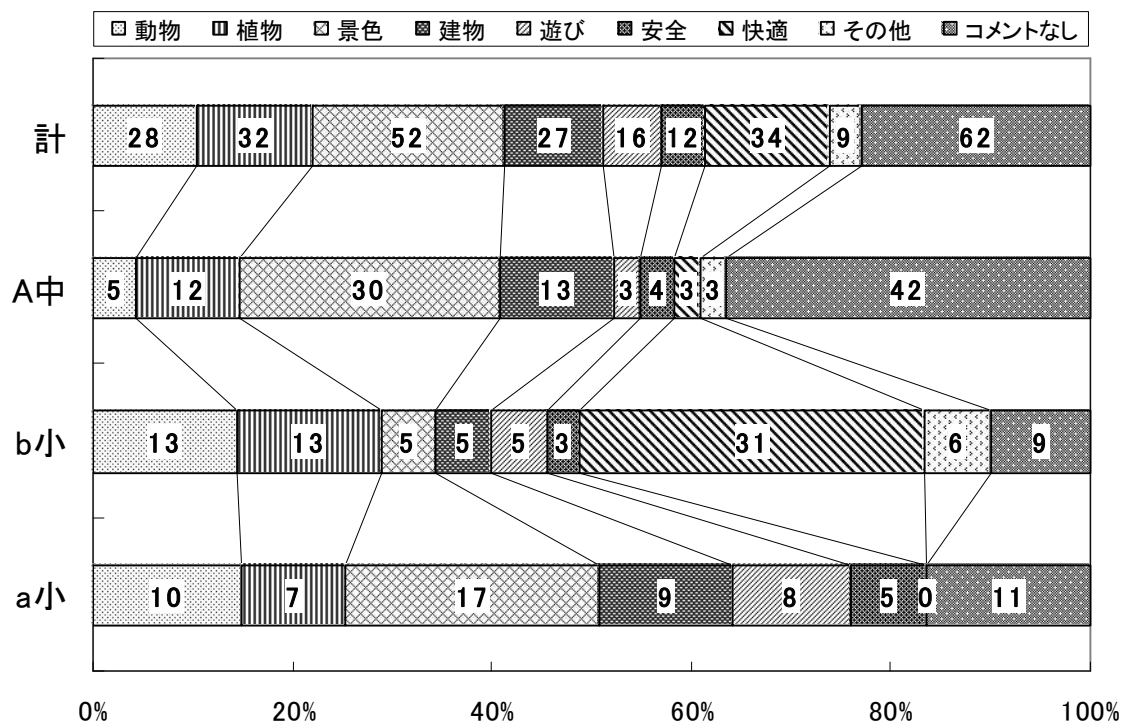


図 4-29 好きな道のコメント数比較(全四校)

各学校の特徴を以下に示す。

- a 小では、「景色がいい」、「田んぼがきれい」、「きれいな草原」などの景色や景観に関するコメントが最も多い。「魚が時々泳いでいる」、「カメがいる」、「サルが出る」などの動物に関するコメント、「彦根城が見える」、「大きな橋」、「この家が好き」などの特定の建物に関するコメントも多かった。また、「ここでよくザリガニがとれる」、「グラウンドでよく遊ぶ」、「まわりは原っぱです、でもここだけアスファルトがあり遊べます」などの遊び体験を伴うコメントが多かったのが特徴的である。
- b 小では、「屋根があって雨の日がいい」、「ひかげで涼しい」、「信号まちの時座れる」などの通学における快適さに関するコメントが最も多かった。また、「犬がかわいい」、「前までツバメがいた」、「白い鳥がきれい」などの動物に関するコメント、「お花屋さんの前の道、お花がきれい」、「春に花が咲いていい香りがする」、「(草に)実がなっている」などの植物に関するコメントも多かった。
- A 中では、「堀とかあって、眺めもキレイ」、「夕焼けがきれい」、「田んぼがいい」などの景色・景観に関するコメントが最も多かった。次いで、「この家すごく雰囲気は好き」、「円常寺、落ち着く」、「彦根城」などの特定の建物に関するコメント、「春は桜が咲く」、「今頃の時期、彼岸花がたくさん咲く」、「木に囲まれていていい」などの植物に関するコメントが多かった。

このことから、a 小のような郊外の学区では、景色や景観がきれいな場所が好きな場所として認知されることが多い。また、その場所が遊び体験を伴って認知されることがある。

b 小のような市街地の学区では、涼しいところや雨宿りができるところなど、快適に通学できる条件を強く求めていると言える。また、動物や植物に対する関心も高いと言える。

A 中のような城下町の特徴を残す古い町並みでは、その景色や景観が良い場所を好きな道として認知していると言える。

4-3-3 好きな道についてのまとめ

好きな道に関して以下にまとめる。

- 小・中学生にとって好きな道は直線道路が最も多く、次いで川・水路・堀のそばの道、お店・建物の前の道が多かった。
- 郊外の小学校では、田んぼや公園、山などを中心として、きれいな景色・景観の場所が好きな道として認識される。
- 市街地の小学校では、沿道の草花から特定のお店や建物まで様々な場所が好きな道として認識される。また、通学中の快適さが強く求められ、動植物に関する関心も高い。
- 歴史的な町並みの中学校では、城の堀や桜並木などのきれいな景色・景観の場所が好きな道として認識される。

4-4 外遊び体験アンケート結果

外遊び体験を現在の遊び頻度、過去の遊び頻度、現在と過去の遊び場所から考察する。

4-4-1 現在の遊び頻度

現在の遊び頻度に関しては、表 4-10、図 4-30 の通りである。

表 4-10 現在の遊び頻度

	a小	b小	A中	B中	計	全体%
ほぼ毎日	9	7	0	0	16	13.2%
週に四、五日程度	3	2	4	3	12	9.9%
週に二、三日程度	14	14	8	8	44	36.4%
週に一日程度	6	9	6	7	28	23.1%
月に二、三日程度	1	3	2	9	15	12.4%
月に一日以下	0	0	1	0	1	0.8%
記入なし	2	3	0	0	5	4.1%
計	35	38	21	27	121	100.0%

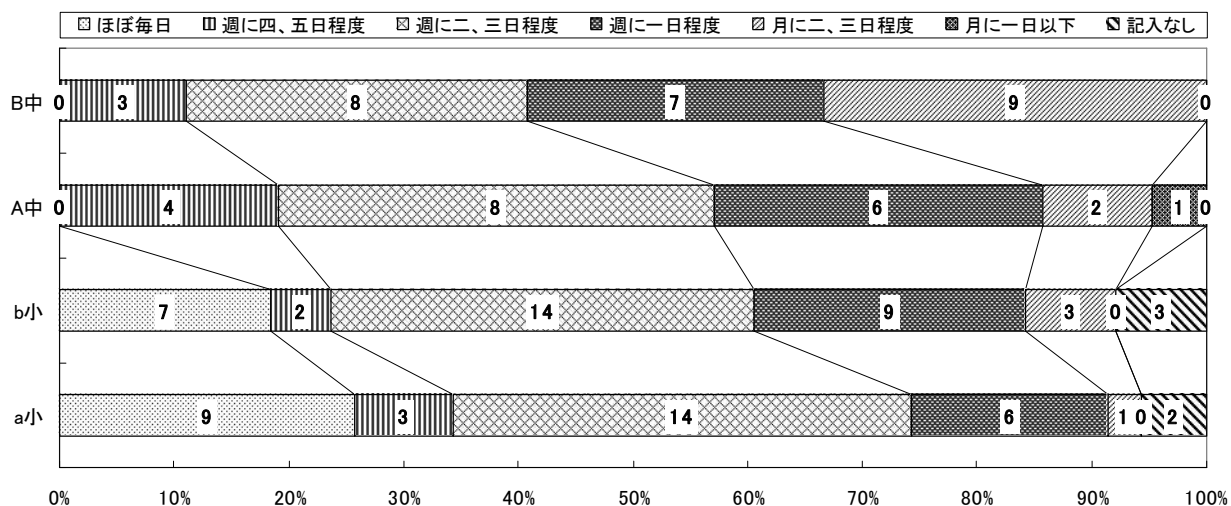


図 4-30 現在の遊び頻度に関する各学校比較

a 小とb 小では「週に二、三日程度」と答えたサンプルが最も多く、「ほぼ毎日」と答えたサンプルも多い。A 中とB 中では「週に二、三日程度」と答えたサンプルが最も多く、次に「週に一日程度」となっている。また、「ほぼ毎日」と答えたサンプルは無かった。

このことから、小学生は平均的に週に二、三日程度遊んでおり、中にはほぼ毎日のように遊んでいる小学生もいると言える。中学生は平均的に週に一日～二日程度遊んでおり、毎日遊んでいる中学生はいないと言える。

4-4-2 過去の遊び頻度

過去の遊び頻度に関しては、表 4-11、図 4-31 の通りである。

表 4-11 過去の遊び頻度

	a小	b小	A中	B中	計	全体%
今よりもっと多く遊んでいた	5	8	14	16	43	35.5%
今より少しだけ多く遊んでいた	11	9	5	8	33	27.3%
今と変わらない	14	14	1	2	31	25.6%
今より遊ぶことは少なかった	4	6	1	1	12	9.9%
今より遊ぶことはかなり少なかった	1	1	0	0	2	1.7%
計	35	38	21	27	121	100.0%

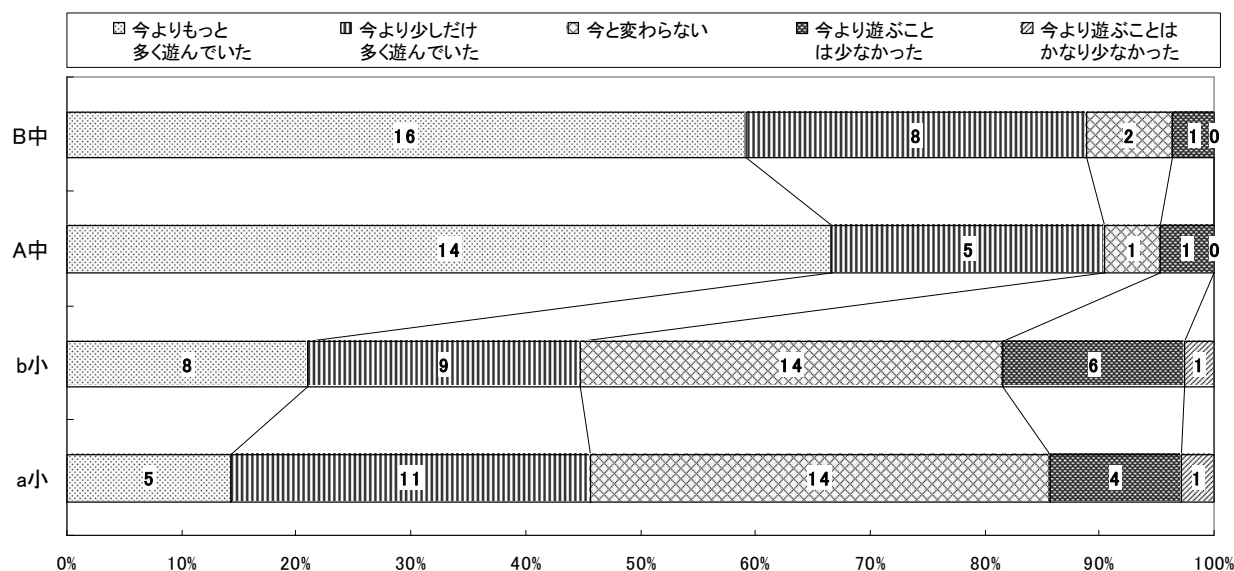


図 4-31 過去の遊び頻度に関する各学校比較

a 小と b 小では、「今と変わらない」と答えたサンプルが最も多い。また、「今より少しだけ多く遊んでいた」、「今よりもっと多く遊んでいた」と答えたサンプルが「今より遊ぶことは少なかった」、「今より遊ぶことはかなり少なかった」と答えたサンプルを少しだけ上回った。A 中と B 中では、「今よりもっと多く遊んでいた」が最も多く、次に「今より少しだけ多く遊んでいた」が多かった。回答の大半はこの二項目であった。

このことから、小学五年生は小学校低学年の時には、現在と変わらない程度に遊んでいることが最も多い。また、全体的な傾向として、小学校低学年の頃の方が少しだけ多く遊んでいたと感じているようだ。中学生は小学校の時には現在に比べ多く遊んでいた事がわかる。

4-4-3 現在と過去の遊び場所

現在と過去の遊び場所に関して、表 4-12 に示す。各学校の現在と過去の遊び場所を図 4-32 ～図 4-35 に、四校の合計を図 4-36 に示す。

表 4-12 現在と過去の遊び場所

	a小				b小			
	現在	過去	計	全体 %	現在	過去	計	全体 %
学校	8	8	16	11.0%	7	13	20	11.9%
公園	11	20	31	21.2%	19	17	36	21.4%
山	0	1	1	0.7%	1	3	4	2.4%
川や池	4	6	10	6.8%	5	6	11	6.5%
琵琶湖	0	2	2	1.4%	1	0	1	0.6%
友達の家	25	29	54	37.0%	28	34	62	36.9%
寺・神社	4	2	6	4.1%	3	1	4	2.4%
スーパー・コンビニ	1	0	1	0.7%	4	1	5	3.0%
商店	2	1	3	2.1%	5	2	7	4.2%
彦根城	0	0	0	0.0%	2	0	2	1.2%
空き地	4	8	12	8.2%	4	3	7	4.2%
田んぼ・畑	0	0	0	0.0%	2	0	2	1.2%
道路	2	1	3	2.1%	2	1	3	1.8%
記入なし	2	0	2	1.4%	3	0	3	1.8%
その他	3	2	5	3.4%	1	0	1	0.6%
計	66	80	146	100.0%	87	81	168	100.0%

	A中				B中				四校合計			
	現在	過去	計	全体 %	現在	過去	計	全体 %	現在	過去	計	全体 %
学校	0	10	10	8.2%	0	12	12	8.3%	15	43	58	10.0%
公園	3	13	16	13.1%	8	18	26	17.9%	41	68	109	18.8%
山	0	2	2	1.6%	0	4	4	2.8%	1	10	11	1.9%
川や池	0	1	1	0.8%	0	3	3	2.1%	9	16	25	4.3%
琵琶湖	4	2	6	4.9%	0	1	1	0.7%	5	5	10	1.7%
友達の家	14	20	34	27.9%	18	24	42	29.0%	85	107	192	33.0%
寺・神社	0	2	2	1.6%	0	1	1	0.7%	7	6	13	2.2%
スーパー・コンビニ	8	6	14	11.5%	16	6	22	15.2%	29	13	42	7.2%
商店	5	6	11	9.0%	9	8	17	11.7%	21	17	38	6.5%
彦根城	1	0	1	0.8%	0	2	2	1.4%	3	2	5	0.9%
空き地	3	4	7	5.7%	2	5	7	4.8%	13	20	33	5.7%
田んぼ・畑	0	1	1	0.8%	0	1	1	0.7%	2	2	4	0.7%
道路	5	8	13	10.7%	1	5	6	4.1%	10	15	25	4.3%
記入なし	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	5	0	5	0.9%
その他	1	3	4	3.3%	1	0	1	0.7%	6	5	11	1.9%
計	44	78	122	100.0%	55	90	145	100.0%	252	329	581	100.0%

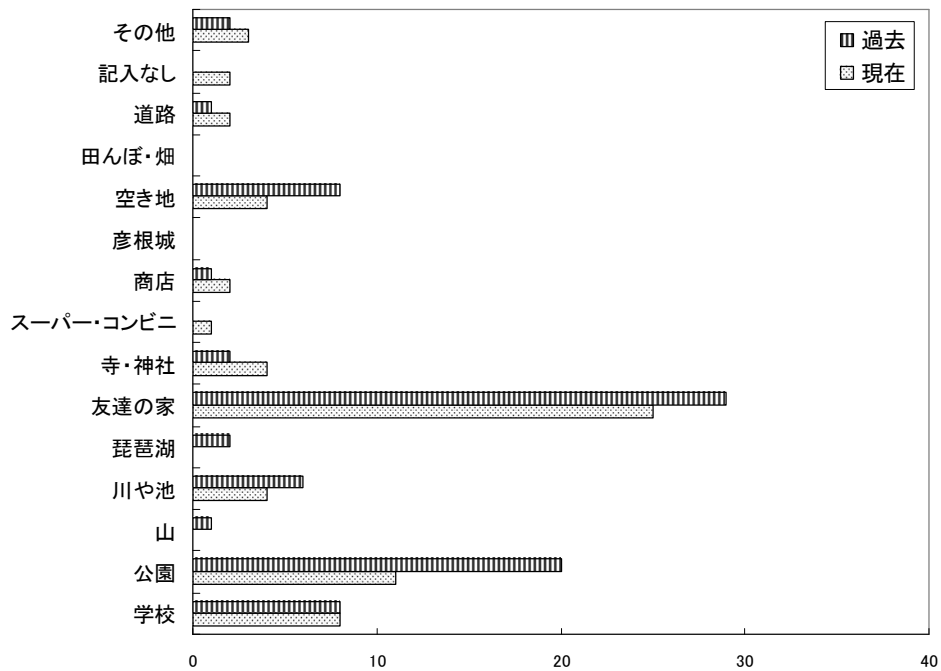


図 4-32 現在と過去の遊び場所(a 小学校)

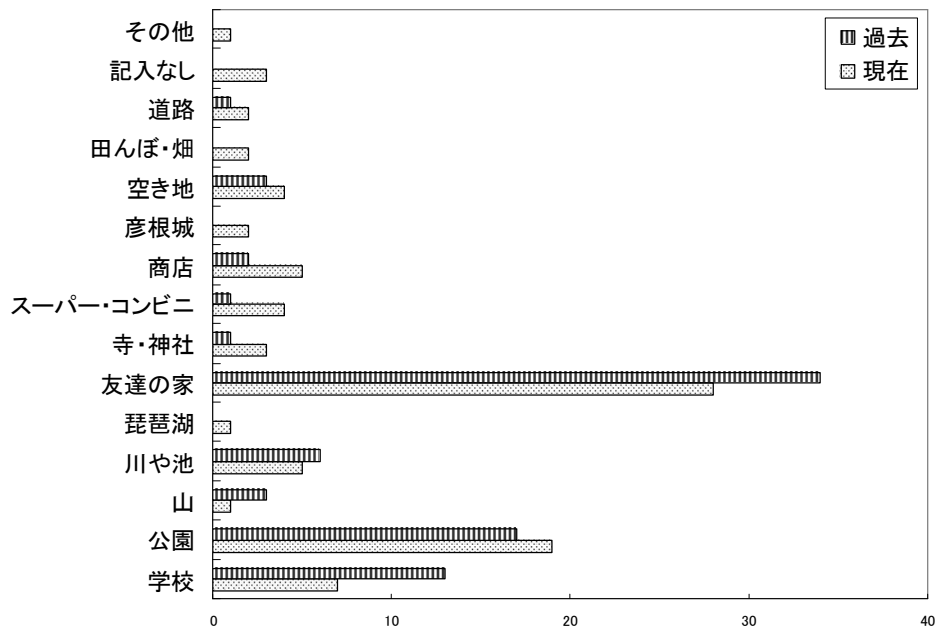


図 4-33 現在と過去の遊び場所(b 小学校)

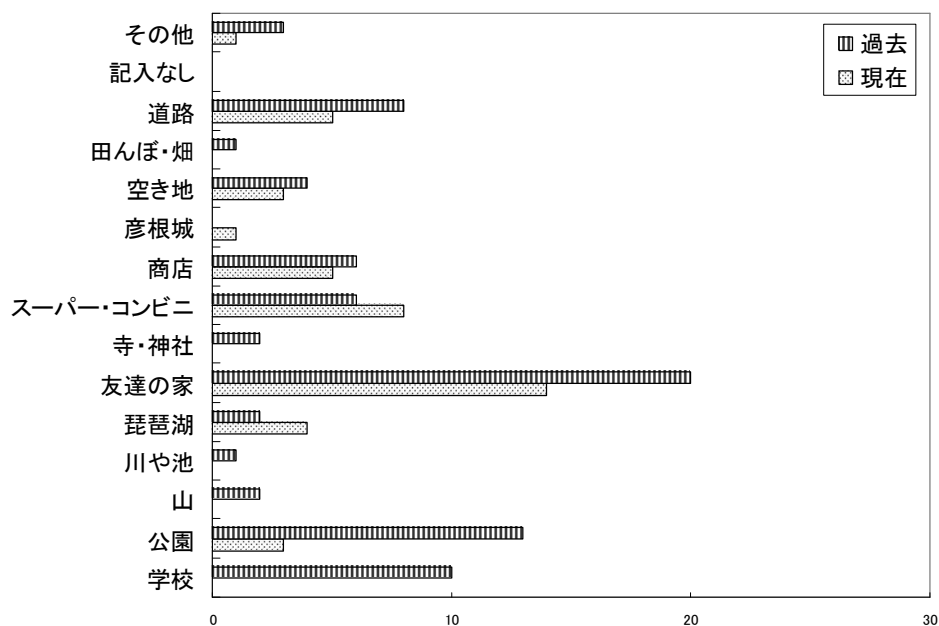


図 4-34 現在と過去の遊び場所(A 中学校)

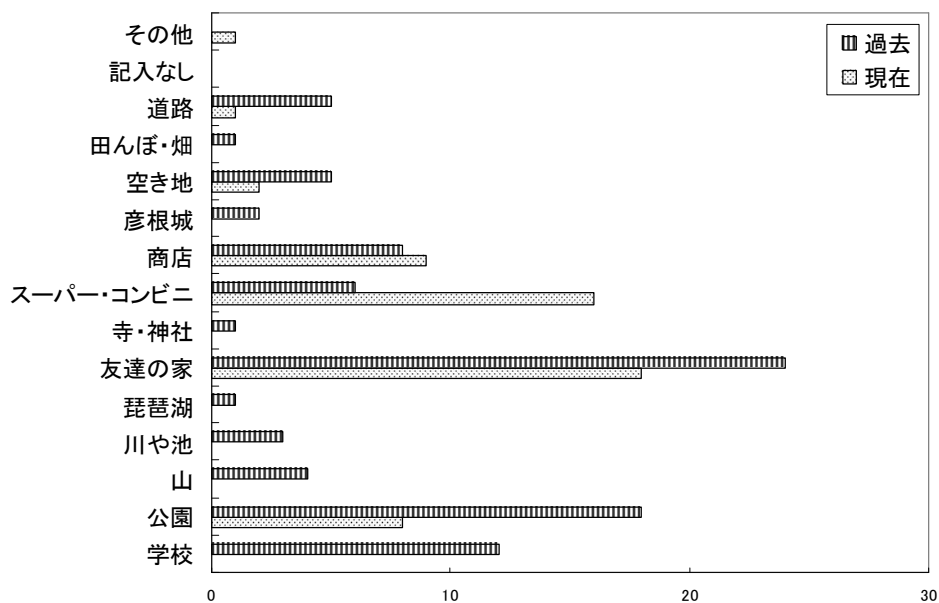


図 4-35 現在と過去の遊び場所(B 小学校)

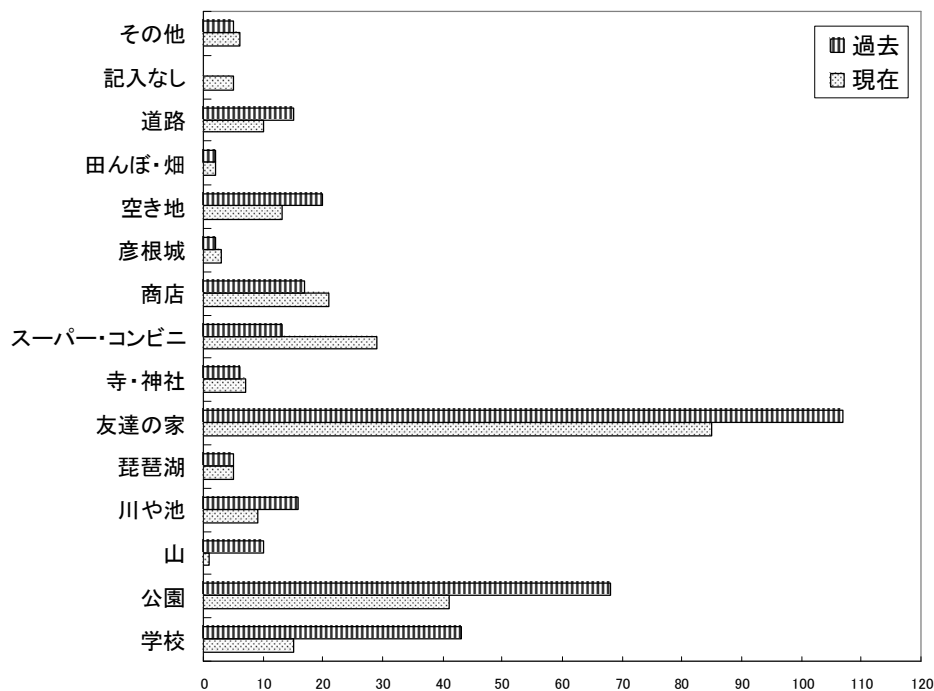


図 4-36 現在と過去の遊び場所(四校合計値)

a 小とb 小に関しては、現在も過去も友達の家が最も多い。次いで、公園、学校であった。また、現在も過去も遊び場所の数はそれほど差がない。

A 中とB 中に関しては、現在も過去も友達の家が最も多い。過去では、公園、学校が多く、現在では、その二つの項目は減り、スーパー・コンビニが多くなる。また、遊び場所の数では現在より過去の方が多い。

このことから、小学生は友達の家で遊ぶことが最も多く、公園、学校などで遊ぶことも多いと言える。また、小学生は学年が変わっても遊び場所の数にはそれほど変化がないと言える。

中学生は小学生同様、友達の家で遊ぶことが最も多い。そして、小学生の時には、公園や学校で遊ぶことも多くても、中学生になると、それらの場所で遊ぶことは少なくなり、コンビニやスーパーなどで遊ぶことが多くなる。また、小学生の時の方がより多くの遊び場所を持っていたと言える。

4-4-4 外遊び体験についてのまとめ

小学生の外遊び体験について以下にまとめる。

- 週に二、三日程度遊んでいることが最も多い。また、毎日遊んでいる子どももいる。
- 低学年の頃の方が少しだけ多く遊んでいた。
- 遊び場所は友達の家が最も多く、公園や学校も多い。
- 外遊び体験は地理的要件の違いにそれほど左右されない。

中学生の外遊び体験について以下にまとめる。

- 週に二、三日程度もしくはそれより少ない頻度で遊んでいることが最も多い。
- 小学生の頃の方がもっと多く遊んでいた。
- 遊び場所は友達の家が最も多い。また、小学生の頃は公園や学校で遊ぶことが多いが、中学生になるとコンビニ・スーパーなどで遊ぶが増える。
- 外遊び体験は地理的要件の違いにそれほど左右されない。

4-5 まとめ

本章では本研究で実施した調査の結果を単純集計などで明らかにしてきた。本章で得られた結果を以下にまとめる。

- 小・中学生は交差点を危ない道として最も多く認識している。次いで、直線道路、横断歩道を危ない道と認識している。
- 学区の違いによる特徴的な危ない道は、郊外の小学校において路肩、市街地の小学校において路面状況や歩道脇の溝など、歴史的な町並みの中学校において曲がり角である。
- 小学生は危ない道だと感じるとき、交通量、見通し、路面や路肩の整備状況、信号や歩道の整備状況などから判断している。
- 中学生は信号や歩道の整備状況を最も大きな判断基準としている。また、交通量、見通しなども判断基準となっている。
- 小・中学生にとって好きな道は直線道路が最も多く、次いで川・水路・堀のそばの道、お店・建物の前の道が多かった。
- 郊外の小学校では、田んぼや公園、山などを中心として、きれいな景色・景観の場所が好きな道として認識される。
- 市街地の小学校では、沿道の草花から特定のお店や建物まで様々な場所が好きな道として認識される。また、通学中の快適さが強く求められ、動植物に関する関心も高い。
- 歴史的な町並みの中学校では、城の堀や桜並木などのきれいな景色・景観の場所が好きな道として認識される。
- 小学生は週に二、三日程度遊んでいることが最も多く、毎日遊んでいる子どももいる。また、遊び場所は友達の家が最も多く、公園や学校も多い。
- 中学生は週に二、三日程度もしくはそれより少ない頻度で遊んでいることが最も多い。また、遊び場所は友達の家が最も多い。小学生の頃は公園や学校で遊ぶことが多いが、中学生になるとコンビニ・スーパーなどで遊ぶが増える。
- 中学生は小学生の頃の方がもっと多く遊んでいたと感じている。
- 外遊び体験は地理的要件の違いにそれほど左右されない。